

■コース生(第5期生)自己紹介



小島 信一郎

総合理工学府
量子プロセス理工学
一貫制博士1年(修士1年)

量子プロセス理工学専攻内野・山形研究室所属修士1年の小島信一郎です。私はGAコースに入る前には先端エネルギー理工学専攻花田研究室に所属しており、研究活動は今でも花田研究室で行っています。研究内容は核融合の実現を目指して高周波の電磁波によって生成された高温プラズマの軟X線計測です。基本的には核融合に関する基礎研究をしています。

GAコース生になり3ヶ月が経とうとしていますが、自分自身の英語力不足を痛感しています。もとより最も苦手な教科が英語でしたので、これまで逃げていた分かなり苦勞しています。しかし、これからは苦手と逃げのではなく、どんどん成長していきたいですね。抱負としてですが、GAコース生としては、まずは最低限自分の意思を相手に理解してもらえるよう、相手の意思を把握できるようになることを第一目標として、また修了後には核融合に関わることで世界的に活躍できることを目指して研究活動と両立させながら励んでいきたいと思ひます。よろしくお願ひします。



久我 一喜

総合理工学府
環境エネルギー工学
一貫制博士1年(修士1年)

私は現在、電子タバコ使用による呼吸器系スケールから室内環境スケールまでの健康影響を包括的に評価するため、計算流体力学(CFD)を使い研究を行っています。近年では、CT画像を基に作られた気道モデルでのCFD解析が環境煙草煙などの汚染物質吸引による定量的定性的な健康影響評価において有用であり、動物実験を代替するものとして期待されています。今後は、気道モデルの解析制度の向上と共に、室内環境への相互影響を検討していく予定です。

昨年10月からGAコース生となった私はまだ3か月間であるものの数々の貴重な経験を得ることができました。GAコースでは自分の研究分野のみならず、幅広い知識を身につけるために他分野の先生からの英語で講義を受けるなど通常のカリキュラムとは異なるスケジュールで進んでいきます。また、コース生のほとんどが東南アジアや中東からの留学生であるため、彼らと交流することで自然と英語を話すようになりました。このようないい刺激により単純作業になりがちな大学院での研究活動は自身の分野だけでなく幅広い分野において私を成長させてくれると思ひます。今後も世界の第1線で活躍できる研究者になるべく精進したいと思ひます。



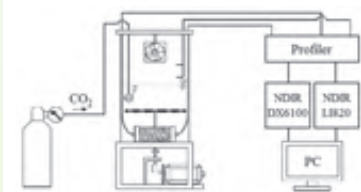
金 晟眞

総合理工学府
環境エネルギー工学
一貫制博士1年(修士1年)

韓国の水原市(Suwon-city)で生まれ育った韓国からの留学生です。名前は金晟眞(キムソンジン)です。九州大学総合理工学府環境エネルギー工学で大気と海の間的气体交換速度について研究を行っています。趣味はテニスと読書です。

あらゆる物事に対して長所と短所を見出し、長所の活用と、短所に対しての問題設定ができる人材となるために、自分の専門分野だけではなく、現在世界で問題となっている環境問題に関しても勉強をしています。

私は世界でもっとも重大な問題は資源問題と環境問題であると考えています。資源は私たちが生活する中で必ず必要となるものであり、環境は私たちが生活する場所そのものです。しかし、資源を費やせば費やすほど環境問題は悪化します。そこで、私の抱負はこれ以上環境が悪化することを防ぐことです。地球は球体であり、すべての場所とはつながっています。そのため、自分自身の周りの環境問題だけではなく、世界全体の環境問題を解決できる人になることです。



澤山 和貴

工学府
地球資源システム工学
一貫制博士1年(修士1年)

私は、昨年の4月からこの九州大学に入学し、10月から5期生としてGreen Asiaに入りました。私が大学院から本学に来たのは、日本で数少ない地熱を専門とした研究室があるからです。私の研究テーマは、枯渇してしまった地熱資源を回復させる手法を確立することです。人工的に河川水などを地下へと注入することで地熱資源の回復を目指すEGSという手法があるのですが、地中に入った水をどうモニタリングするかが課題となっています。現在、電磁波を使って地中の水の状態を調べようという研究が進められていますが、この探査で得られる結果が、実際にどのくらいの水の量を反映しているかを調べた研究例は多くありません。そこで私は、実際の地熱地域の岩石を用いて、高温高压容器を使った室内実験からその関係を詳しく調べ、最終的には、探査の結果と比較することで地中の水の状態を評価する手法を確立しようと考えています。

GAの授業はまだ始まったばかりですが、英語のプレゼンや論文執筆の練習、専門外の勉強など普段の授業では学べないことが学べるため、とても充実しています。将来は、GAで多角的な視点を見につけ、新たな地熱資源の開発に携わる研究員になりたいと考えています。

